

石川県・北陸新幹線に期待高まる金沢市

～「オール石川」で浮揚の兆し～

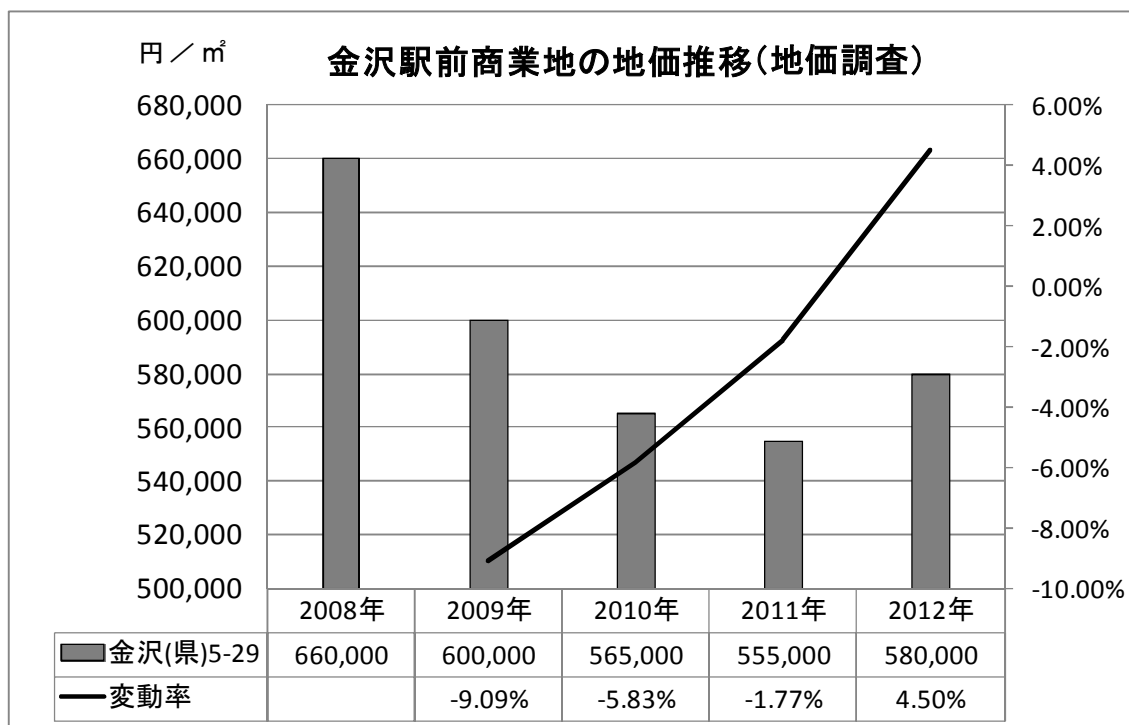
日本不動産研究所 北陸支社
不動産鑑定士 神田 勝廉

【北陸新幹線金沢駅着工】

平成 26(’14)年度末に開業する北陸新幹線の金沢駅新築工事が平成 24(’12)年 12 月に着工した。駅ホーム階の柱には金沢金箔のパネル、中 2 階の壁には加賀友禅の意匠が用いられ、他に素材として能登ヒバの板、九谷焼や輪島塗などの伝統工芸品が使用される予定で、「オール石川」で観光客を迎えることになりそうだ。このような動きに応じて地元の新幹線開業への期待は高まるばかりで、その影響を受けて金沢駅周辺部や中心市街地の地価も上昇する地点が出てきた。



「新幹線開業に向けて整備工事が進む金沢駅」



【ランキングでみる石川県】

このように浮揚の兆しが見えてきた石川県であるが、実は様々な分野での全国ランキングでは上位に食い込んでいることが多く、ここではそのうちのいくつかを紹介したい。

まず、地域ブランド調査(ブランド総合研究所調べ)によると、石川県都の金沢市は平成 21(’09)年から全国 9 位。都道府県魅力度ランキング(同調べ)では石川県は 13 位と、上位に食い込んでおり、認知度・魅力度ともに一定の評価を受けていることが伺える。ただし、首都圏での知名度の向上が今後の課題となってくるようだ。

人口増加率日本一の野々市市(ののいちし)は住みよさランキングでなんと全国 2 位、高齢者に優しい街(東洋経済新報社調べ)として能登地方の七尾市が全国 4 位となっている。

観光地としての知名度を上げている場所としては、やはり日本三名園の一つである兼六園があげられるが、最近では平成 16(’04)年に開館した金沢 21 世紀美術館がこれに迫る勢いで、観光客誘引に大きな効果がみられる。当美術館はベネチア・ビエンナーレ第 9 回国際建築展金獅子賞を受賞した建築デザインで、国内の旅行会社や口コミサイト調べで訪れたい美術館第 1 位に輝くほか、世界でも 10 位となっているが、実際この町に住む者として私も何度も足を運んでみたくなるほど魅力的な美術館である。



「斬新なデザインで今や観光名所になっている『金沢 21 世紀美術館』」

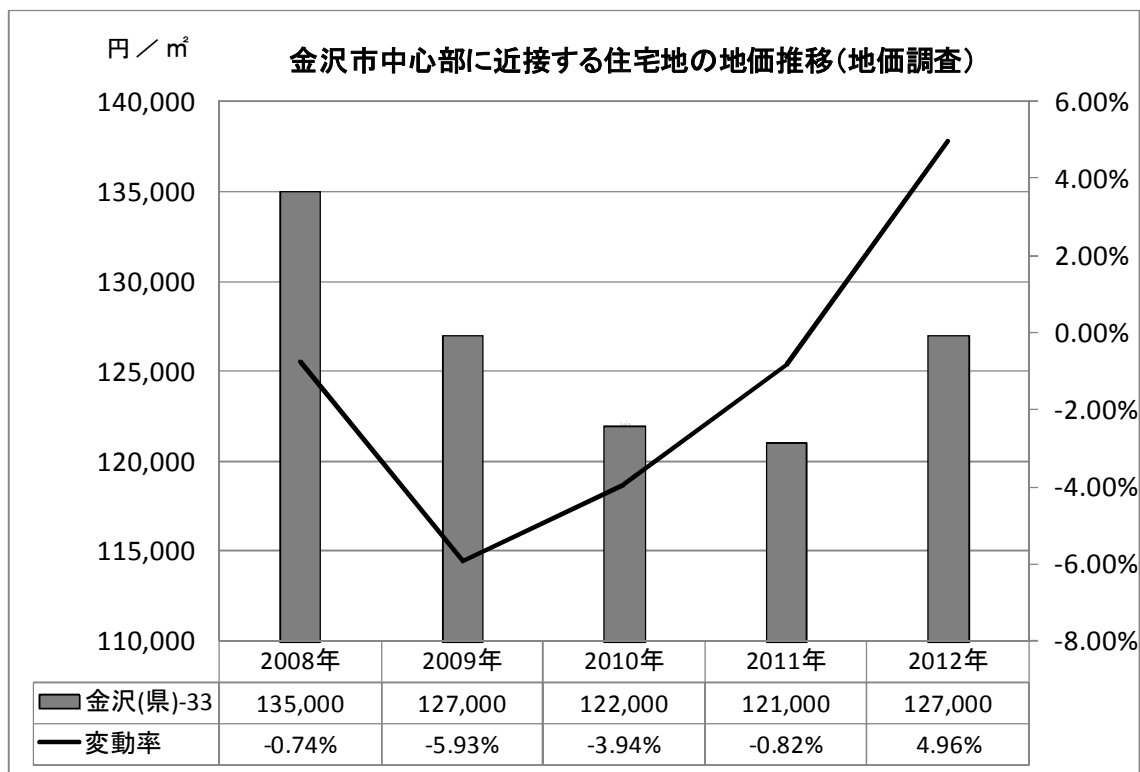
また、金沢駅はアメリカの旅行雑誌で世界で最も美しい駅の一つに、そして、昨年 5 月に開館した海みらい図書館（元日本代表のサッカー選手を起用して撮られた CM にも利用）はアメリカ大手インターネットサイトで世界の美しい公共図書館 25 にそれぞれ選ばれた。



「美しい公共図書館 25 に選ばれた『海みらい図書館』」

一方、市民の台所として賑わっていた近江町市場が、平成21(’09)年に再開発事業により、「いちば館」として新しく生まれ変わったのだが、これも中心市街地活性化などに寄与した土地活用の模範事例を表彰する「土地活用モデル大賞」最高賞の荣誉に輝いている。

以下の図のとおり、周辺住宅地の地価が上昇した要因として、この「いちば館」効果は見逃せない。





「再開発で生まれ変わった『いちば館』」

【伝統と革新】

全国のみなさんには古くからの伝統文化が根付く古都というイメージが強いかもしれないが、古く美しい街並みに、斬新な設計デザインを駆使した上記のような建築物が点在することにより生み出される新旧のコントラストを楽しむことができることも金沢、そして石川の魅力の一つである。